

慢性心不全に合併したうつ病と、運動介入についての研究

研究分担者 木村宏之

名古屋大学大学院医学系研究科細胞情報医学専攻脳神経病態制御学講座精神医学分野 講師

研究要旨

研究目的:

- 1) 慢性心不全(Chronic Heart Failure: CHF)に合併する大うつ病性障害(Major Depressive Disorder)の有病率の調査
- 2) CHF患者の人格傾向の調査
- 3) 心不全患者の抑うつと機能的制限の関連

研究方法:

- 1) 2011年7月から2014年10月までの期間に、名古屋大学医学部附属病院においてCHFで治療を受けた入院患者のうち、研究参加に同意した者74例を対象とし、Structured Clinical Interview for DSM-IV(SCID)によりMDDの有無を診断した。
- 2) 2011年7月から2014年10月までの期間に、研究参加に同意した男女50歳以上のCHF群(N=25)と、年齢・性別を一致させたCHFを有さない対照群(N=29)の両群に対し、Temperament and Character Inventory(TCI)-125を施行し、人格傾向を比較した。
- 3) 2011年7月から2013年8月までの期間に、CHF患者のうち40歳以上のものを対象とし、Patient Health Questionnaire-9(PHQ-9)とPerformance Measure for Activities of Daily Living-8(PMADL-8)を用いて、抑うつと入院前の機能的制限に関連について検討した。

結果:

- 1) 研究参加に同意した者74例(男性51例、女性23例)のうち、SCIDによりMDDと診断されたのは2人(2.7%)であった。
- 2) CHF群は対照群と比較して、固執($p=.011$)は有意に低かった。
- 3) 対象者25名(男性22名、女性3名、平均年齢67.4歳)に対して、対応のないt検定を用いて、PHQ-9<10群とPHQ-9 10群の2群間のPMADL-8得点の平均差の検定を行ったが、有意差は認められなかった。

まとめ:

- 1) SCIDを用いてMDDの有病率を調査した研究*と比較すると、われわれのサンプルにおけるMDDの有病率は低かった。
- 2) TCI-125を用いて得られた人格傾向は、臨床感覚と一致していた。
- 3) 入院時の抑うつと入院前の機能的制限との関連は認められなかった。

研究協力者氏名・所属施設名及び職名

足立康則 名古屋大学医学部附属病院化学療法部 病院助教

佐藤直弘 名古屋大学大学院医学系研究科 博士課程

山内 彩 名古屋大学大学院医学系研究科 博士課程

A. 研究目的

慢性心不全患者において、うつ病の合併は再入院率や死亡率の増加と関連し、患者の生活の質（quality of life : QOL）や生命予後を悪化させる。本研究では、慢性心不全（Chronic Heart Failure : CHF）患者の特徴を明確にするため、うつ病の合併率および、CHF 患者の人格傾向、CHF 患者の抑うつと機能的制限の関連について、検討を行った。

B. 研究方法

1) 2011 年 7 月から 2014 年 10 月までの期間に、名古屋大学医学部附属病院において CHF で治療を受けた入院患者のうち、研究参加に同意した者 74 例を対象とし、Structured Clinical Interview for DSM-IV (SCID) により MDD の有無を診断した。

2) 2011 年 7 月から 2014 年 10 月までの期間に、研究参加に同意した男女 50 歳以上の CHF 群 (N=25) と、年齢・性別を一致させた CHF を有さない対照群 (N=29) の両群に対し、Temperament and Character Inventory (TCI)-125 を施行し、人格傾向を比較した。

3) 2011 年 7 月から 2013 年 8 月までの期間に、CHF 患者のうち 40 歳以上のものを対象とし、Patient Health Questionnaire-9 (PHQ-9) と Performance Measure for Activities of Daily Living-8 (PMADL-8) を用いて、抑うつと入院前の機能的制限に関して検討した。

（本研究は、名古屋大学大学院医学系研究科及び医学部附属病院生命倫理委員会の承認内容に則り、文書による説明と同意を得た患者を対象として、個人情報の保護に配慮して、遂行している）

C. 研究結果

1) 研究参加に同意した者 74 例 (男性 51 例, 女性

23 例)のうち、SCID により MDD と診断されたのは 2 人 (2.7%) であった。

2) CHF 群は対照群と比較して、固執 ($p=.011$) は有意に低かった。

3) 対象者 25 名 (男性 22 名、女性 3 名、平均年齢 67.4 歳) に対して、対応のない t 検定を用いて、PHQ-9 < 10 群と PHQ-9 ≥ 10 群の 2 群間の PMADL-8 得点の平均差の検定を行ったが、有意差は認められなかった。

D. 考察

1) CHF 患者のうつ病合併率は約 20% とされてきたが、これまでの先行研究は質問紙を用いた診断が多い。本研究の併存率は 2.7% と少なかったが、本研究結果は、精神医学的な構造化面接を用いた診断により抽出されたより正確な合併率と考えられる。

2) CHF 群は、健常群に比べ、物事への持続性や忍耐力が低い傾向があることが示唆された。このような傾向は、当院の患者において治療アドヒアランスが低く、入退院頻回な患者が多いという臨床実感と重なるところがある。しかし、サンプルサイズが小さく、当院の診療特性などのサンプリングバイアスなど幾つかのリミテーションがある。さらに、横断面の評価のみであり、この人格傾向が発症前から存在したか否かは不明である。

3) 入院時の抑うつと入院前の機能的制限との関連について、現時点で有意な関連は認められなかった。本研究には、サンプルサイズの問題や入院時から抑うつ評価時までの期間がサンプルにより異なること、また当院の診療特

性のサンプリングバイスなど幾つかのリミテーションがある。

E. 結論

- 1) SCID を用いて MDD の有病率を調査した研究*と比較すると、われわれのサンプルにおける MDD の有病率は低かった。
- 2) TCI-125 を用いて得られた人格傾向は、臨床感覚と一致していた。
- 3) 入院時の抑うつと入院前の機能的制限との関連は認められなかった。

F. 健康危険情報

本研究で実施された質問紙や構造化面接に伴う有害事象は認められなかった。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

慢性心不全患者の人格傾向の検討

佐藤直弘、足立康則、山内彩、木村宏之、小林聖典、清水美帆、平敷安希博、石井秀樹、室原 豊明、尾崎紀夫

第 69 回日本循環器心身医学会 平成 24 年 1 月 福岡

慢性心不全患者の抑うつと機能的制限の関連

山内彩、佐藤直弘、足立康則、木村宏之、小林聖典、清水美帆、中島裕貴、服部慶子、安川悠仁、平敷安希博、石井秀樹、六鹿雅登、安藤昌彦、室原豊明、碓氷章彦、尾崎紀夫

第 70 回日本循環器心身医学会総会 平成 25 年 11 月 東京

補助人工心臓装着術後の抑うつ症状の縦断的調査

山本崇正、足立康則、太田愛美、伊藤陽菜、越

路文香、木村宏之、藤本和朗、六鹿雅登、碓氷章彦、尾崎紀夫

第 71 回 日本循環器心身医学会総会 平成 26 年 11 月 札幌

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

特記すべきことなし